

試験時間 90分

注意事項

- 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

Q 長年診察している患者から、「先生の説明には情がこもっていない」と言われました。救護週間前に彼女の親友が亡くなったことが関係しているかもしれません。どのように慰めの言葉をかければよかったですでしょうか？(六十代、婦人科開業医Y)

A

実はこの患者は、私の主催する「佐藤綾子のパフォーマンス学講座」の卒業生。独身を貫き、商社の役員秘書として定年まで働いた彼女は、現在六十一歳です。Y医師の診療所でホルモン補充療法(HRT)を受けており、もうすぐ十年になります。Y医師は、患者からの評判もいいベテランの医師です。そのY医師に対して、患者が「情がこもっていない」と言うに至った事情が、どうにもおぼろげなままです。私は、直接彼女から話を聞くことにしました。

彼女の話によれば、亡くなった親友は三歳年上で、とても頼りにしていたそうです。その親友が、乳癌の再発のため、治療もむなしく亡くなってしまいました。親友の死に深く落ち込み、生きる気力まで失いかけたちよとどそのころ、彼女は新聞でHRTのリスクについての記事を読みました。「自分も十年近くHRTを受けているから、乳癌になるかもしれない」と不安になり、Y医師を訪ねたのです。彼女はY医師に、親友が乳癌で亡くなったことや、HRTを続けている自分も乳癌になりたくない心配だということ、遠慮がちに話しました。主治医であるY医師が気を悪くしないように、彼女なりに気をつけて、おそろおそろの切り出したのです。ところがY医師は、話を最後まで聞くか聞かないかのタイミングで、「何を言っているのですか。HRTで乳癌になるなんて、一年当り百人に一人もいません。交通事故のようなものです」と即答しました。Y医師の「百人に一人」という表現に、彼女はいたく傷つきました。たとえ稀であっても、乳癌は親友を死に追いやった恐ろしい病気なのです。そう思うと、自分でも意外なほど感情がたかぶってしまい、「先生、もう少し情のこもった話し方をしてくれないのではないのでしょうか。結局先生は、患者の気持ちなんてどうだっていいんですね！」と叫びました。彼女は、医師の言葉の揚げ足を取ってクレームを付けるような人ではありません。ただ、「百人に一人」という表現を使ったY医師の本性は「冷たい」と直感的に感じました。そして、これまでY医師の下でHRTを続けてきたけれど、病院を変えた方がよいのではないかとまで思うようになったそうです。

もし私が彼女の立場でも、同じように感じたかもしれません。医学的には正しかったとしても、もし自分が乳癌になったら、自分にとっては以下どころではなく、一〇〇%です。一日に何人も同じような患者を診ている医師は、どうしてもそれを忘れがちになるのではないのでしょうか。だから、「百人に一人」という言葉が何気なく出てきてしまったのでしょうか。その前にY医師が、「①」と、共感の言葉をかけていればよかったです。医師が多忙であるのは間違いありません。そのため、患者の身に起こった不幸にいちいち共感したり、内心では共感していたとしても、それを言葉に出したりする時間的余裕がないのが現実でしょう。「忙しくて、とても患者一人ひとりの話につき合っていない」という声を、何人も医師から聞いたことがあります。では、どうすればよいのでしょうか。パフォーマンス学の観点から解決策をお教えしましょう。それは、

- ②
- 1.
- 2.
- 3.

の三つです。患者と医師の両方からコミュニケーション不足の問題を相談されている私は、この三つの解決策にある程度の自信があります。

(佐藤綾子 日経メディカル 2010年6月号より)

問一 タイトルを二十字以内でつけなさい。

問二 ①でY医師がかけるべきであった言葉を七〇字以内で記しなさい。

問三 ②はどのような解決策がよいのか、三つ箇条書きで述べなさい(一五〇字以内)。また、そうした解決策が有効な理由を述べなさい(四五〇字以内)。